

V O L V O

ポ・ヴェーグ PÅ VÄG

A Customer Magazine from Volvo Trucks Japan

Issue No.71 April 2024

ボトムアップで
人と社会に優しい会社に



8 受け継がれるレガシー
廃棄物の輸送などで大きな成功を収めた
スウェーデン企業のオーナーに聞く

16 毎日の仕事が楽しくなるトラック
石見サービスの3人のドライバーが
ボルボ・トラックの魅力について語る

18 テクノロジーを活用して事故を削減
調査結果と最先端技術を活用することで
交通事故を未然に防ぐ

THE WORLD'S SAFEST VOLVO. 世界最高水準の安全性



ボルボ FH のキャブ構造は、ゼロからデザインされたものです。その結果、ボルボ史上最も安全なキャブが誕生しました。たとえ静止している物体に時速 80 キロで衝突したとしても、ドライバーの命を高い確率で守ります。それは、世界で最も厳しいといわれるスウェーデン式衝突試験で実証済み。この試験では、ルーフへの 17 トンの圧力や、リアと A ピラーへの 29.4 キロジュールの衝撃にも耐えてきました。いくらキャブ構造が頑丈でも、飛んできたパーツでケガをするようなら、安全なトラックとは言えません。だから、ボルボでは接合部の安全性についても、何度も繰り返しテストを行っています。世界最高水準の安全性。それは、ボルボ・トラックが長年にわたって厳しい衝突試験を積み重ねてきた証なのです。

V O L V O

ボトムアップで 人と社会に優しい会社に

液体原料を中心に輸送する兵庫県丹波市の石見サービスでは、
3台のボルボ・トラックが関東から九州にかけての幹線輸送を支えている。

12 ページ



ライフサイクルを通じてサポート

ボルボ・ディーラーになって25年。
ボルボ・トラックのことを知り尽くした
兵庫県の丸栄自動車を紹介する。

7 ページ



毎日の仕事が楽しくなるトラック

石見サービスの3人のドライバーが、
パワーや居住性、走行安定性など、
ボルボ・トラックの魅力について語る。

16 ページ



受け継がれるレガシー

運転手だった父親の背中を見て育っ
たオールソンさんは、小さな運送会
社を全国規模の企業へと成長させた。

8 ページ



テクノロジーを活用して事故を削減

ボルボ・トラックは、調査結果と最
先端技術を活用して、交通事故を未
然に防ぐ方法を模索し続けている。

18 ページ

日本でのボルボ・トラックの登録台数が最高記録を更新

このたびの令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご挨拶とお悔やみを申し上げます。また、被害に遭われた全ての方々に心からお見舞い申し上げます。被災地では、現在も多くの方が不自由な生活を強いられ、不安な日々を過ごされていることと存じます。報道などでそうした非常に厳しい状況を目にするにつけ、本当に胸を締めつけられる思いです。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

昨年、ボルボ・トラックのフラッグシップモデルであるボルボ FH は、発売 30 周年を迎えました。その記念すべき年に、日本では1年間のボルボ・トラックの登録台数が史上最高を記録することができました。これもひとえに、ボルボ・トラックをご愛顧いただいているユーザーの皆様、そしてお客様を日々支えてくださる全国各地のディーラーの皆様のおかげです。心から感謝いたします。

ボルボ・トラックの登録台数が着実に伸びているのは、2021年モデル以降に販売を再開したリジッド車が、徐々に皆様に認知されてきたことも一因だと思っております。今号のカスタマー・インタビューのページにご登場いただいたお客様もリジッド車を導入いただいています。インタビューでは、ボルボ・トラックが「あこがれのトラック」としてドライバーさんのモチベーションアップに貢献しているというお話をうかがい、大変うれしく思いました。また、ボルボの魅力の一つとして、整備性の良さを挙げていただいたことも印象に残っております。整備・点検時にキャブを大きく倒すことができ、エンジンなどへのアクセスも容易で、作業がしやすいと聞きます。ボルボ・トラックはドライバーの運転環境だけでなく、メカニックの仕事環境も考慮して設計されているのです。

昨年は、ボルボ FH のデモ車で全国各地のディーラーなどを巡る「ロードショー」や各地のイベントで多くの方にボルボ FH を実際に見て、触れていただきました。今年もそういった機会を多く設け、たくさんの方々にボルボ・トラックの魅力を伝えていければと思っております。

ボルボ FH は、30 周年の区切りの年を終え、新たな 10 年に向けて走り出しました。今後も進化し続けるボルボ・トラックに、どうぞご期待ください。

ボルボ・トラックセールス
バイスプレジデント
関原 紀男



PÅ VÄG ボ・ヴェーグ

本誌は、ユーザーの皆様とボルボ・トラックを結ぶコミュニケーション誌です。「PÅ VÄG (ボ・ヴェーグ)」とは、「旅の途中」「移動中」を意味するスウェーデン語。ボルボ・トラック・ユーザーの皆様が日々営む輸送業務をイメージしたタイトルであると同時に、ボルボ・トラックの進化し続ける姿勢も表しています。本誌の内容についてのご意見・ご要望は、お気軽に UD トラックス (株) ボルボ・トラックセールスまでお寄せください。

[HTTP:// volvotrucks.jp](http://volvotrucks.jp)
facebook.com/VolvoTrucksJapan
instagram.com/volvotrucksjp
youtube.com/volvotrucks





イノベーションの連続だったボルボ FH の 30 年



初代ボルボ FH の古さを感じさせない洗練されたフェイス(上)と現行モデルの印象的な V 字型ヘッドランプ。

ボルボ・トラックのフラッグシップモデルであるボルボ FH は、2023 年に発売開始から 30 年の節目の年を迎えた。ボルボ FH は、業界で最も成功したモデルの一つであり、世界中の約 80 の市場で約 140 万台が販売されている。優れた走行性能と燃費効率を実現したボルボ FH は、1993 年に発売されるとすぐにトラックの新標準を打ち立てるモデルとなった。それから 30 年経った今でも、このトラックは象徴的な存在であり続けている。

ボルボ・トラックのコアバリューである品質、安全性、環境への配慮を原点として、イノベーションは長年にわたって継続されてきた。過去 30 年間の革新のマイルストーンには、運転席のエアバッグ、自動トランスミッション「I-シフト」、軽いステアリングと優れた操縦性を可能にしたボルボ・ダイナミック・ステアリングなどがある。

エクステリアデザインの面では、ドライバーの

直視性を向上させるユニークなスリムデザインのバックミラーと、ドライバーの視認性と快適性を向上させながら個性的な外観を演出する V 字型ヘッドランプを採用。これらは、ボルボのテクノロジーとデザインがドライバーにどのようなメリットをもたらすかを示す好例である。

「初代のボルボ FH は、トラックの概念を根底から覆す革新的なモデルでした。以来、私たちはトラック輸送における新基準を確立し続け、このトラックをさらに 5 世代にわたって発売してきました。私たちの成功の方程式は、最新技術を活用してお客様とドライバーに常に明確なメリットをもたらすことです。継続的な改善努力と絶え間ない進化の証として、ボルボ FH は『インターナショナル・トラック・オブ・ザ・イヤー』に 4 度選ばれた唯一のトラックになっています」とボルボ・トラックの長距離セグメント・マネージャー、イルバ・ダーラーシュテットは述べている。■

ボルボ FH エレクトリックが「トラック・オブ・ザ・イヤー 2024」を受賞

ボルボ・トラックの大型電気トラック、ボルボ FH エレクトリックが「インターナショナル・トラック・オブ・ザ・イヤー 2024」に選ばれた。審査委員会は、決定にあたり、この電気トラックの性能、シームレスな加速、静粛性、振動のない挙動を高く評価した。

「ボルボ FH エレクトリックがこの名誉ある賞を受賞したことを大変誇りに思います。輸送業界がトラック・オブ・ザ・イヤーに電気自動車を選んだのは史上初めてのことです。ボルボ FH エレクトリックはトラック輸送の新時代を象徴しており、この受賞は、ゼロ・エミッション輸送への移行が着実に進んでいることを明確に示しています」と

ボルボ・トラック社のロジャー・アルム社長は述べている。

ボルボ FH エレクトリックはスウェーデンのヨーテボリ工場に 2022 年に生産が開始され、一般市場向けの生産は 2023 年からベルギーのゲント工場で行われている。

ボルボ・トラックは、2019 年に電気トラックの量産を開始した世界で最初のトラックメーカーであり、今日では多種多様な輸送に対応するよう設計された計 6 モデルの幅広い電気トラックのラインアップを取り揃えている。ボルボ・トラックは、欧州の大型電気トラック市場をリードしており、市場シェアは 49% に及んでいる。■



インターナショナル・トラック・オブ・ザ・イヤーのジャンネリコ・グリッフィーニ会長(左)とボルボ・トラック社のロジャー・アルム社長。

ボルボ・トラック社長、 カスタマー、ディーラーの100台記念を祝福

2023年7月、ボルボ・トラック社のロジャー・アルム社長はじめマネジメントチームが来日し、日本におけるボルボ・トラックビジネスの拡大に感謝を表した。

東京都中央区に本社を置く菱中海陸運輸株式会社は、2023年5月にボルボ・トラック納入累計100台を達成した。ボルボ・トラック社のロジャー・アルム社長らが同社を訪問し、記念セレモニーを行った。菱中海陸運輸様には、2000年に第1号車を納入して以来、継続的にボルボ・トラックをご購入いただいている。

「ドライバーが気持ちよく過ごせる仕事環境を今後も整えてまいります。ボルボ・トラックはそ

の一翼を担うので、これからも良い製品を展開することを期待しています」と同社の中村英二社長は述べている。

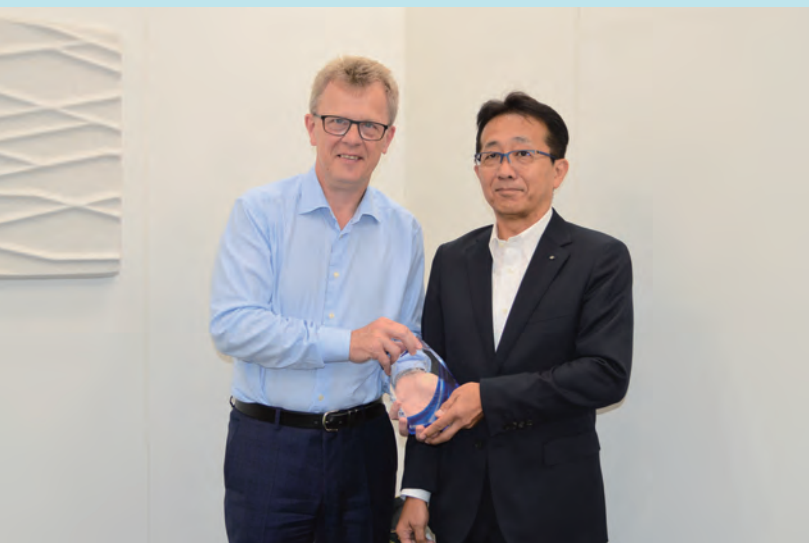
また、岡山県倉敷市に本社を置くボルボ・トラックディーラー、ボルボ・トラック中国株式会社キャリオンは、2022年度販売台数100台を達成。ボルボ・トラック社ロジャー・アルム社長より記念トロフィーを贈呈した。

ロジャー・アルムは「100台を販売することは大変なこと。このトロフィーをお渡しできることをとても光栄に思う。今後はサービス体制をしっかり構築し、お客様の満足度を高めることで、繰り返し選んでいただき、次の100台に繋げて

ほしい」と祝福した。

ボルボ・トラックは2022年度に日本全体で630台と、日本でのボルボ・トラックビジネス30年余で最高の販売台数を記録したが、キャリオンは全体の販売台数の15%を占める100台を販売し、ボルボ・トラック日本市場成長の業績に大きく貢献した。

キャリオンの應本一樹社長は、「2000年にボルボ・ディーラーを始めて23年がたった。今後もチームを大切に、次の100台、さらにその次の200台を目指したい」と意気込みを話した。■



ボルボ・トラック社のロジャー・アルム社長と菱中海陸運輸株式会社の中村英二社長。

株式会社キャリオンの従業員とボルボ・トラックのマネジメントチーム。



札幌モビリティショーで展示されたボルボ FH 6x4 トラックのグローブトロッターキャブ。

6x4 トラクターに グローブトロッターキャブが登場

2024年モデルよりラインナップに追加されたボルボ FH 6x4 トラクターグローブトロッターキャブを2023年11月に名古屋モビリティショー、2024年1月に札幌モビリティショーに出展した。

これまで市場からの要望は高かったものの、6x4 トラクターでは展開なかったハイルーフキャブがラインナップに追加されることで、長距離・

重量物輸送のドライバーにも向上した快適性が提供でき、フルエアサス仕様なので荷物にもドライバーにも負担の少ない運転環境を実現する。

当モデルは、5月9~11日にパシフィック横浜で開催されるジャパントラックショー2024 (<https://truck-show.jp>)にも出展予定。ぜひご来場ください。■

丸栄自動車株式会社（兵庫県・福井県）

車両のライフサイクルを通してサポートできる 経験豊富なディーラー

日本全国でお客様の稼働を支えるボルボ・トラック正規ディーラーを紹介。今回は、兵庫県に本社を構える丸栄自動車株式会社です。



— 会社について教えてください。

トラックの販売、钣金・塗装、各種メンテナンスなどを行っています。ボルボ・トラックの取り扱いを始めたのは1999年。今年で25年目となり、これまでに合計1000台以上のボルボ・トラックを販売してきました。

— ボルボ・トラックを担当するメカニックはありますか？

本社工場に約10名、神戸支店に4名、敦賀市にある福井支店に4名います。現在、管理台数は約200台です。

担当メカニックは、ボルボが開催する研修会には必ず参加し、最新の知識と技術を習得しています。また、ボルボ・トラックのメカニックの世界的技術競技大会である「VISTA」にも積極的に参加しています。



— 御社の強みを教えてください。

関西・中国・北陸の物流の要となる中国道自動車道、山陽自動車道、舞鶴若狭自動車道、北陸自動車道にアクセスしやすい場所に拠点を構えています。定期メンテナンスも、万が一のトラブルの際にも立ち寄りやすく、スピーディな対応が可能です。万が一、路上故障が発生した場合でも、北海道から沖縄まで、全国各地で対応できます。

さらに自社で钣金・塗装・架装サービスを行っているため、架装などにかかる費用を購入時リース・ローン費用に組み込むことが可能です。月々の支払額に組み込むことで納車後の想定外の出費を抑え、安定的な支払サイクルのもとにトラックを保有できます。

— 全国のボルボ・トラックユーザーにメッセージをお願いします。

長年、ボルボ・トラックの販売だけでなく、高品質のメンテナンスやアフターサポートを行ってきました。ボルボの厳しい基準をクリアした、万全の設備と技術で、お客様の安全で効率の良い運行をサポートいたします。ボルボのこと、トラックのことなら、何でもお気軽にご相談ください。



スウェーデンから視察に訪れていたボルボ・トラックのアフターサービス担当者（左）と握手を交わす北野裕輔社長（右）。

丸栄自動車株式会社

<https://ei-net.jp>

本社

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺 48-1

TEL: 0795-80-2155

FAX: 0795-80-2666

神戸支店(ボルボ・トラック神戸サービスセンター)

〒658-0023 兵庫県神戸市東灘区深江浜町 1-4

TEL: 078-414-3737

FAX: 078-414-3738

福井支店(ボルボ・トラック福井サービスセンター)

〒914-0025 福井県敦賀市樋ノ水町 28-1

TEL: 0770-47-5571

FAX: 0770-47-5572





受け継がれるレガシー

スウェーデンの輸送業者クリステル・オールソンさんは、25年の歳月をかけて、家族経営の小さな会社を全国規模の企業へと成長させた。輸送や建設、廃棄物管理の分野で事業を展開し、人々に奉仕することに情熱をもって取り組んでいる。



「私は父親を見て育ったので、業界のことを理解していたし、チャンスがあることも知っていました。夢と呼ぶべきかどうかはわかりませんが、何らかの形で挑戦したかったのでしょうか」

オールソンズ社 オーナー
クリステル・オールソンさん

ク リステル・オールソンさんは運送業者の家庭に生まれた。父親は運送会社を経営しており、オールソンさんは幼い頃、父親の運転するトラックや建設機械と一緒に乗っていた。その経験から、車両に対する思いや人々に奉仕することへの情熱が育まれた。「私は子どもの頃からこの業界に親しんできました。でも、父は私によくこう言っていたんです。『将来は運送業者以外の、他の職業に就きなさい』と」。

ビジネスと経済に強い関心を持っていたオールソンさんは、かなり長い期間、経済学を勉強していた。それにもかかわらず、そして父親の警告にも逆らって、22歳のときに運送会社の株を購入し、父親と同じ道をたどることになった。そのときから彼はプロとして運送業に携わり、以来振り返ることなく歩み続けている。

オールソンさんは運送会社に22年間勤め、1998年、数人の仲間とともにオールソンズ社を設立した。自分自

身のためにどんな未来を築くことができるかを開拓することを決めた。「私は父親を見て育ったので、業界のことを理解していたし、チャンスがあることも知っていました。夢と呼ぶべきかどうかはわかりませんが、何らかの形で挑戦したかったのでしょうか」。

オールソンズ社は現在、従業員800人以上を擁し、毎年約13億クローネの売上をあげる会社となった。彼はこの業界に魅了されている理由の一つとして、人との関わりを挙げる。人から学び、人に教えることに喜びを感じている。そうすることで、人々の知識を結集し、ビジネスが成長する未来を築くことができるのだ。「ギブ・アンド・テイク、そして謙虚でオープンであること。それによって持続可能なパートナーシップを築くことができるのです」。

オールソンさんは2006年以来、ボルボ・フィナンシャル・サービスと提携している。定期的に打ち合わせ



クリステル・オールソンズさん（左）とボルボ・フィナンシャル・サービスの担当者

を行い、事業内容を確認し、今後の投資や取引量、そして、どのトラックや機械に投資するかについて話し合っている。オールソンさんは、ボルボ・フィナンシャル・サービスをパートナーとして仕事をすることで大きな安心感が得られ、彼らのサービスが事業の発展に大きく貢献していると考えている。

「現代は予測しにくい世の中です。だから当然、安心できる協力パートナーが多いほうが、経営に対する安心感も高まります。ボルボ・フィナンシャル・サービスと提携することで、会社の運営に簡素さときちんとした仕組みを取り入れることができます」。

オールソンズ社は現在、電気トラックの導入準備を進めており、電気式建設機械の購入も検討している。オールソンさんは、このような取り組みが「オールソンズ」というブランドを強化し、今の地位を維持することにつながると信じている。このサステナビリティへの取り組みでもボルボ・フィナンシャル・サービスがさまざま

なプログラムや融資でサポートしている。「ボルボ・フィナンシャル・サービスは、ITソリューション、フォローアップ、そして正しい意思決定を行うための強固な基盤を提供してくれます」。

オールソンズ社は、将来に向けて新たな目標を掲げている。それは、この循環型の考え方をもっと発展させていくというものだ。今後はさらにサービスを拡充させ、廃棄物の回収・再利用のシステムを改善していきたいと考えている。

オールソンさんは、大きな可能性を感じている環境分野に、当面は重点を置くつもりだ。前向きな精神と謙虚なアプローチ、そして「学びながら生きる」という考えを持つオールソンさんは、同社がより幅広いサービスを提供し、持続可能な未来を実現するために必要なものを十分に備えていると確信している。 ■

ユーザー・インタビュー

TEXT: YASUHIRO NODA · PHOTO: TAKESHI MORI



多紀連山や三国ヶ岳など、四方を山々に囲まれた道を倉庫に向けて走るボルボ・トラック。

ボトムアップで 人と社会に優しい会社に

液体原料をつめ込んだドラム缶などを主に輸送している石見サービス株式会社。ドライバーの「あこがれのトラック」として、3台のボルボが関東から九州にかけての幹線輸送を支えている。

兵

兵庫県丹波市に本社を置く石見サービス株式会社は、接着剤や塗料、断熱材などの原料となる液体化合物をドラム缶や一斗缶で運ぶ、液体危険物輸送のプロフェッショナル。現在、35台のトラックを保有し、ドライバー25名体制で運行している。

同社が特に力を入れているのは、日本列島のほぼ中心という立地条件を活かした丹波・関東間および丹波・九州間の幹線輸送だ。1台の大容量車両に複数荷主からの小口貨物を積み合わせ、埼玉や福岡にある協力会社まで輸送する。そこから納品先までは協力会社が容量に応じたトラックで運ぶ。これにより積載率が向上し、輸送コストを削減できる。

こうした輸送体制を取れるのは、同社が倉庫事業を営んでいるからでもある。10棟の倉庫を保有し、入庫・保管・出荷および在庫管理の一連の業務をコンピューターで総合的に管理しているため、効率的な積み合わせ輸送が可能になる。

また、同社では構内サービス事業も展開している。荷主の工場に常駐し、製造工程の補助作業や製造品の保管・ピックアップ・配送などを行っている。これにより、荷主の工場間接作業や構内物流の省力化、経費削減に貢献するとともに、運輸部門や倉庫

部門と綿密に連携することで、さらなる効率化を実現している。

石見サービスがボルボ・トラックを最初に導入したのは2017年。ボルボFHトラクターを1台購入した。「ドライバーのあこがれになれば、という思いで購入しました。ボルボには、社内でも評価の高いドライバーに乗ってもらいたい。しっかり技術を磨いて技量が上がれば、いつかはこういう素晴らしいトラックに乗れるんだというモチベーションにつながればと思いました」と同社の川口浩樹社長は言う。

その後、2019年に2台目のボルボFHトラクターを購入、2022年にはフルエアサスのボルボFHリジッドを導入した。3台目にリジッド車を選んだ理由は、「トレーラーが入れない納品先への輸送に使用するなど、トラクターと両方保有することで幅広いニーズに対応できるようになるから」と川口社長。さらに信頼の厚い担当ディーラーに「本当におすすめできるボルボの単車がありました」と言われたのも決め手になった。

最初のボルボ・トラックを導入してから7年が経過したが、当初の思いは間違っていなかったと川口社長は言う。「今は、





「ボルボを導入した理由の1つはそのインパクト。街ですれちがっても『あっ、ボルボや!』って目につくんです」と語る川口社長。確かにこうして3台並んで走る姿は圧巻だ。

ボルボに乗ることがドライバーのあこがれになっているのを実感しています」。実際、ボルボ・トラックの担当ドライバーの満足度は高く、社長のもとへは絶賛する声が多く寄せられているという。

『車内が広くて居住性がいい』『オートマなので運転が楽』『長距離輸送でも全然疲れない』といった話をよく聞きます。確実にドライバーのストレス軽減に貢献していますね。あとは車高が高くて視認性がいいので、安全性の向上にもつながっていると思っています」。

当初は想定していなかった利点もあったという。1つは燃費の良さ。特にボルボFHリジッドは、保有する全トラックの中で燃費が最も良いというデータが出ている。もう1つは整備性の良さだ。「国産車はドライブシャフトやステアリングなどにグリスアップのニップルがあるが、ボルボにはカプラー以外にニップルがないから、整備が早く終わる。例えば3カ月点検なら、国産



「今は、ボルボ・トラックに乗ることがドライバーのあこがれになっているのを実感しています」

石見サービス株式会社
川口浩樹 社長

車だと丸一日かかるが、ボルボは半日で終わるから稼働への影響も少ない、と運行責任者から聞いています」。これらは、ボルボ・トラックがドライバーだけでなく、経営者にとっても大きなメリットをもたらす車両であることを示している。

石見サービスでは、地域社会への貢献の一環として、地元の小学校で交通安全教室を開催しているが、そのときにもボルボ・トラックが活躍する。「やはりボルボは見た目にインパクトがありますから、子どもたちも喜んでくれます。もちろん、トラックの死角を教えたりして交通安全の意識を高めることが第一の目的ですが、『カッコええトラックやな〜』ってあこがれてもらって、彼らが大きくなったときに石見サービスのボルボを見たなという記憶が残っていればうれしいですね。そして、その中からドライバーになりたいという子が一人でも現れたら最高です」。



社員一丸となってSDGsに取り組む石見サービス。品質、安全性、環境への配慮を企業理念としているボルボ・トラックとも考え方に共通点が多い。

石見サービスの一番の強みは、「ボトムアップのマンパワー」だと川口社長は言う。「94名の従業員を擁するまでに会社が成長し、組織の中にチームという小グループが生まれました。近年、その体制がしっかり整ってきて、それぞれのグループが自主的にさまざまな提案をしてくれるようになりました。トップダウンよりもボトムアップ。これが充実してきたことが、今の会社の一番の強みだと思っています」。

石見サービスでは、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、「安全第一の会社」「人と社会に優しい会社」「環境に優しい会社」を目指してさまざまな活動に取り組んでいるが、そうした中でもボトムアップの事例は数多く見られる。

例えば、「安全第一の会社」を目指す一環として定期的に行っている荷主・協力会社との定例会議。ここでは、運輸部門の従業員が自分たちで情報を集めてきて議題を決め、自分たちが主体となって会議の運営を

行っている。

「人と社会に優しい会社」を目指して健康経営優良法人認定を取得しようとなったときには、そのために何をしたらよいか、という問いかけに対して従業員から、毎月健康レシピを考えるのはどうか、という案があがってきた。最初は寄せられた健康レシピをプリントして従業員に配布したり、会社のInstagramで紹介したりしていたが、そのうち「給与明細に差し込んで家族にも見てもらおう」「12カ月分をまとめてカレンダーを作成して、お客様に持って行こう」とどんどん従業員からアイデアが出て広がっていった。

「環境に優しい会社」に関しては、交通エコロジー・モビリティ財団が主催する「2023年度エコドライブ活動コンクール」に社員一丸となって取り組んだ。その結果、見事に優良賞（事業部門）を受賞している。

「これをやってみるのはどうか、と私が何気なく目標を示すと、みんなが『頑張りま

しょう』と動き始めてくれる。じゃあ何を頑張ったらいいかをみんなで考える。そこからいろんな取り組みがスタートするんです。みんなが助けてくれることに対してしっかり感謝の気持ちを伝えることが、私の仕事かなと思っています」。

笑顔が絶えない活気あふれる職場で、日々さまざまな取り組みがボトムアップで行われている石見サービス。従業員が生き生きと働ける環境は、社長のこうした人柄によるところが大きいのかもしれない。■

石見サービス株式会社
〒669-3314
兵庫県丹波市柏原町拳田136
TEL 0795-72-3111
FAX 0795-73-0859
<https://iwami-s.com/>

ドライバー・インタビュー

TEXT: YASUHIRO NODA · PHOTO: TAKESHI MORI

ボルボFH 2021年モデル
モデル: FH 6×2リジッド
トランスミッション: I-シフト
エンジン出力: 460PS
キャブ: グローブロッター

森脇祐亮さん
ドライバー歴: 5年
ボルボ・トラック乗車歴: 1年
主な輸送品: 化学原料
運行地域: 関東から九州

土元宏訓さん
ドライバー歴: 29年
ボルボ・トラック乗車歴: 6年
主な輸送品: 化学原料
運行地域: 関東から九州

井上佑樹さん
ドライバー歴: 21年
ボルボ・トラック乗車歴: 5年
主な輸送品: 化学原料
運行地域: 関東から九州

ボルボFH 2018年モデル
モデル：FH 4×2トラクター
トランスミッション：I-シフト
エンジン出力：540PS
キャブ：グローブロッター

ボルボFH 2014年モデル
モデル：FH 4×2トラクター
トランスミッション：I-シフト
エンジン出力：540PS
キャブ：グローブロッター



毎日の仕事が楽しくなるトラック

ボルボFHリジッドに乗って約1年の森脇祐亮さんは、このトラックの圧倒的な存在感と卓越した居住性、そして国産車にはないパワーが気に入っているという。「特にパワーの違いは明らかですね。それを一番実感するのは、東名高速道路の足柄サービスエリア近くの坂を登っているときです。12トン満載に積んでいても、登坂車線を使わずに走行車線を75キロくらいで難なく走れます。クルーズコントロールをオンにした状態でアクセルを踏まずにスーと登っていきますから、かなり楽ですよ」。

運行責任者も務めるベテランドライバーの土元宏訓さんは、走行性能や居住性の高さはもちろんのこと、オプションの冷房装置や標準装備

のパーキングヒーターの快適性も高く評価する(2021年モデルからI-パーク・クールも標準装備)。「荷主さんのところで待機しているときなど、停車中はエンジンを切りますが、パーキングヒーターがあるから暖かい。8時間くらいかな、結構長くもつのもうれしいですね。休憩や睡眠もしっかりとれます。アイドリング状態だとエンジン音が気になりますが、エンジンを切って使えるのでとても静かです。静粛性という点では、走行中も本当に静かですよ。助手席の人と大声を出さずに会話ができるし、風切音もほとんどない。これはボルボのあまり知られていない利点だと思います」。

井上佑樹さんは、ボルボ・トラックのステアリ

ングの軽さに驚いたという。「初めてダイナミック・ステアリング付きのボルボに乗ったとき、油圧がつぶれとるんちゃうかなって思ったくらい(笑)。軽くて交差点で曲がりすぎてしまうところだった。でも、高速道路のわだちでステアリングがガタつくことはないし、横風が強いときでも全然ブレない。長距離を走っても疲れないうし、ベッドも広くてふかふかだからよく眠れる。今まで仕事が嫌だったわけじゃないですけど、ボルボに乗っていると毎日仕事をするのが楽しくなります。以前は文句を言っていたような仕事でも、今は2つ返事で「はい、わかりました！」って言えますよ(笑)」。

トラック事故削減のためにテクノロジーを活用

ボルボ・トラックが関連する交通事故をゼロにする——。ボルボ・トラックは、ゼロアクシデントというビジョンを掲げ、事故調査結果と最先端技術を活用して、すべての道路利用者のために安全性を向上する努力を続けている。



今

日のトラックに搭載されたセンサーやレーダー、カメラ、データ処理機能など、さまざまな先進技術のおかげで、事故を未然に防ぐための高度な安全システムの開発が可能になっている。そして、多くの安全性サポート機能の搭載が各国で義務づけられているが、ボルボ・トラックが提供するソリューションの多くには、求められている要件のさらに先を行く技術が搭載されている。

安全性に違いをもたらす アクティブ・セーフティ・システム

米国道路安全保険協会が実施した調査によると、前方衝突警告システムや自動緊急ブレーキ・システムにより、追突事故が40%以上減少することがわかっている。

ボルボ・トラックで交通・製品安全ディレクターを務めるアンナ・リッジ・バーリングは、長年にわたり事故調査に幅広く携わっており、アクティブ・セーフティ・システムが違いをもたらすことを確信している。「例えば、スピードを出しすぎたためにトラックがカーブで横転する事故は、以前は頻繁に起こっていました。しかし、2015年にEUで横滑り防止装置（エレクトリック・スタビリティ・コントロール：ESC）が法的要件となって

以来、こうした事故は大幅に減少しました」。

「重要なのは、最も頻繁に起こる事故のタイプを特定し、その根本原因を理解し、さまざまな技術を活用して防止策を見つけることです。例えば、トラックと自転車が関係する事故の多くは、トラックが助手席側に曲がる時に発生します。一番の要因は、運転席からの視界の悪さということが調査からわかったので、パッセージャーコーナーカメラや側面衝突回避サポートなど、ドライバーが死角内の自転車を発見しやすくすることで、事故を防ぐことができます。最も頻繁に起こる事故の原因を改善するだけで、数え切れないほどの人命が救われるでしょう」。

データとデジタル化が交通安全に寄与

テクノロジーの進歩により、データからドライバーの技術や運転状況について多くのことが明らかになったことで、未然に危険な行動を検知し、より安全な運転を促すことが可能になった。例えば、急ブレーキや急加速が頻繁に起こるということは、ドライバーが攻撃的な運転スタイルをとっているか、ストレスの多い状況にいることを示唆している。また、警告だけであってもアクティブ・セーフティ・システムが頻繁に作動している場



「今は、ボルボ・トラックに乗ることがドライバーのあこがれになっているのを実感しています」

ボルボ・トラック 車両・交通サービス部門
ヨハン・ルンドベリ

合、ドライバーが事故を起こすリスクが高いことを示している。

一部市場で展開されているコネクティブサービスでは、車両から送られるさまざまなデータを活用して運転行動を洞察する。そのレポートを通じて、改善すべき領域を特定し、将来の事故リスクを低減するためにドライバー・トレーニングなどの措置を講じることが可能だ。例えば、ドライバーが頻繁に急ブレーキを踏んでいる場合、先読み運転の講習を受講することで運転スキルの向上、安全運転につながることを期待できる。あるいは、ある交差点でアクティブ・セーフティ・システムが頻繁に作動しているなら、会社はその交差点を安全に通行する方法を検討したり、自治体や計画担当者と協力して交差点の状況を改善する方法を検討することもできる。

「道路や交通状況が原因で、ドライバーが危険な状況に陥ることがあります。また、ドライバーが自身の危険な運転行為に気づいていない場合もあります」と、ボルボ・トラック 車両・交通サービス部門のヨハン・ルンドベリは言う。「いずれにせよ、こうした状況を特定することで、その根本原因を調査することができます。事故が発生する前にこのようなリスクの高い状況を対処することは、非常に有益であり、データはそれを可能にする本当に有用なツールとなり得ます」。

ドライバーが交通安全の要

交通安全にとって最も重要な要素はドライバーであり、ドライバーは常に注意深く対応しなければならない。しかし、どんなに熟練した経験豊富なドライバーであっても、人間であることに変わりはなく、自分では制御できない事象の影響をしばしば受けることがある。アクティブ・セーフティ・システムの目的は、ドライバーをサポートし、そのスキルを補完することだ。結局のところ、1秒でも早く警告を発したり、反応できたりすることが、ヒヤリハットと致命的な事故の分かれ目になるのである。■

V O L V O



全てのお客様に、 安心のアフターサービスを

ボルボ・トラックは、お客様の使用条件に応じて1台1台に最適なメンテナンス計画をご提案します。この計画に基づき、適切なサービスを適切なタイミングでご提供することで、予期せぬ故障を最小限に抑え、トラックの稼働率を最大限に上げることができるのです。ボルボ・トラックを長く安心してお使いいただくために、メーカー保証期間を一般部品・駆動系部品とともに延長したパッケージ、ボルボ・ブルー・プレミアもご用意しています。ボルボ・トラックは、全てのお客様に、トラックの安心稼働をお約束します。

詳細につきましては、お近くのボルボ・トラック正規ディーラーにお問い合わせください。

